

津高生 図書貸出数4倍増

コロナ禍も読書の輪、文科相表彰

津高校（津市）が二〇二二年度の「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けた。生徒が興味を持つ理系分野の本を充実させ、本を活用した地域の調査活動などで生徒の調べる力を養っている。一七年度は二千三百八十二冊だった年間貸出数が、二二年度には四倍の九千五百十五冊に増えるなどの実績も評価された。

（鎌倉優太）

全国の小中学校や高校など二百二十八校が表彰され、県内の高校では津高が唯一選ばれた。四月二十三日に

同校は先進的な理系の教育を進める文科省のスーパースクール（SSH）に指定されており、理系で学ぶ生徒が多

い。自然科学系の蔵書を増やしたことで生徒の需要に応えた。野外で自然と触れ合ったり、地元の郷土史家らと地域を歩いて自然や歴史を学んだりするイベントも実施。体験を通じて本などで調査してまとめる能力の重要性を伝えている。



①受賞を喜ぶ図書館司書の井戸本さん ②自然科学系の本が並んでいるコーナー。いずれも津市の津高で

地域が応援、育まれる調べる力

新型コロナウイルス禍で休校中だった二〇年五月と二一年八、九月には「津高生に本を届けようプロジェクト」を展開し、在宅の生徒に計三百五冊を郵送した。新学期が始まる際には、生徒に気軽に本を手にとらせてもらおうと、校内の中庭に音楽を流して本を並べる「青空図書館」を開催。読書への興味や関心を醸成している。

本を年一冊以上借りた同校生徒の割合は一七年度は22・8%だったが、二二年度は49・6%に増えており、校内に読書の輪が広がっている。学校図書館の蔵書数では生徒のリクエストに応えられないこともあり、年間五百冊を県内の各図書館から取り寄せているという。

同校図書館司書の井戸本吉紀さん（四）は「学校の図書館で調べたり学んだりした経験を、大人になって地域の図書館を活用する際に役立ててほしい」と生徒に期待する。

受賞を受けて「地域の人たちの協力で実施できたイベントも多い。関係者にお礼を言いたい」と感謝を述べた。